水稲情報

しっかりと田んぼの観察をして用水管理をより確実に！

活着を良くするには土の中の状態も考えることが重要って話があったよね！

５月の佐渡米カレンダーには「**保温的水管理**」と「**除草剤の処理層を壊さない**」ことが重要、ワキ対策には「夜干し」が大切って書いてあったな。

1 田植え後、1週間くらいで苗が元気になり、葉の色も濃くなってきて葉っぱがピンっと立ってきたら活着した証拠！

2 いつまでも水をたっぷりと溜めて放置するのでなく、根っこに酸素を与えて丈夫な根が深く張るように管理することが登熟を高め、収量・品質を向上させるポイント！

そのためには 田んぼの観察が大切！活着してからの用水管理のすゝめ

条件・症状	用水潤沢 水の駆け引きができる場合	用水少なく厳しい場合
秋耕出来、アグリ革命散布も出来て、ワキは見られない。	活着順調で分げつも見られ始めたなら、２～３㎝水位で優良茎をとる。	田面が乾く事が無いよう、こまめに田面を観察し用水を入れる、勢いよく入れない。
足を踏み入れるとブクブク泡が出てくる、硫黄臭いがする。	早急に**ワキ対策**をとる。 間断かん水｛３湛２落（サンカンニラク：３日水を入れ２日落水する）など田面を出す時間をつくる。	入水を辞め、夜間は田面が出るように夜干しする。 田面が白くなるほど乾かし過ぎない。
活着良く生育が早くて「茎数」が明らかに増えてきた。	茎数を数えたり、株毎引き抜いて根っこが白い根より茶色の根が増えているなら「中干し」を開始する。	弱めの中干し（白くなるまで乾かさず、湿ったまま黒く乾いた状態を維持する）を始める。

3 田面水で田んぼの土の中の環境を整えるとともに、図の様に暗渠を使って根の健全化を図る！

● 理想的な使い方 ～暗渠の栓はいつ開ける？いつ閉める？～

例）水稲栽培（コシヒカリ）の場合　　時期は大まかな目安

時期	開・閉	作業	暗渠栓開閉の目安
１月	閉		冬期間は暗渠保護のため閉める
２月	閉		
３月	開	施　肥 耕うん	ほ場を乾かすために暗渠の栓を開ける
４月	開 閉	耕うん 代かき	代かきのために水をため始めたら閉める
５月	閉	田植え	
６月	閉 開	中干し	中干しを始めたら開ける
７月	閉	穂　肥	放水管理を始めたら閉める

＊参考：令和７年度 佐渡米生産者大会（R7.2.22）「異常気象に対応した新潟米の対応について」佐渡農業普及指導センター

暗渠栓を開けると「**茶褐色の錆色の水**」が出てくる」「暗渠排水口に**赤茶色の鉄がこびり着いている**」のは、田んぼの中の土が酸欠になり「還元」状態になっている証拠です。

還元が強いと、硫化水素や有機酸が発生し根の生育を抑制し、よい茎が取れず、登熟期に「秋落ち」を助長します。昨年は根の環境が悪く登熟不良となりました。

おしらせ ６月上旬予定のビッグフェスティバルで「ワキや還元の見える化装置」を使い詳しい説明を行います。ご興味のある方はぜひご来場ください。